

都市環境デザイン会議 北陸ブロック総会

日 時：2021 年 6 月 19 日（土）12:00～12:30
会 場：越前古窯博物館 天心堂+オンライン開催
参加者：会場参加 28 名、オンライン参加 10 名 計 38 名
議 事：第 1 号議案 第 30 期 北陸ブロック活動報告及び収支報告承認の件
第 2 号議案 第 31 期 北陸ブロック活動計画及び収支計画承認の件
報告・協議事項：JUDI プロジェクト報告
理事会報告
広報委員会報告
研究発表委員会報告
30 周年記念事業実行委員会報告
会員について

<議事要旨>

- ・第 1 号議案 第 30 期活動報告・収支報告、第 2 号議案 第 31 期活動計画・収支計画は、無事承認されました。
- 次期開催地は、2021 年秋に新潟の予定です。
- 活動費は、正会員等の会費額と会員数による荷重配分方式により配分され、北陸ブロックは 25 万円となっています。
- ・なお、本総会において、定例総会、全国大会の参加費支援が承認されておりますので、参加を希望される方は事務局までご連絡ください。
- ・公募制プロジェクト「自然物が創る街の魅力 3」の活動について、鏑隆弘氏より、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動ができず、本部事務局に活動期間の延長を申し出たところ了解が得られたので、今期、コロナ禍の状況をみながら活動をしていく予定と説明されました。
- ・理事の新田川貴之氏より、理事会の活動報告のほか、総会は 8/21 に大阪会場+WEB 併用、全国大会は 9/17～18 に丸亀市+WEB 併用で開催することが報告されました。
- ・広報委員会の報告として、上坂達朗氏より、JUDI JOURNAL 5 月号、広報ライブ配信の実施の案内

や JUDI JOURNAL への投稿募集、FB の JUDI クラブや北陸ブロックページの積極的利用についてお願いがされました。

- ・研究発表委員会報告は、埜正浩氏より、趣旨及び令和 2 年度の第 7 回研究発表会についての報告、令和 3 年度も開催することが説明されました。
- ・30 周年記念事業実行委員会について、埜正浩氏より、趣旨、テーマとマークの説明があり、記念誌の作成と記念フォーラムを開催することが報告されました。また、北陸ブロックとしても、30 周年記念事業として、全体のテーマ『くらしを紡ぐ美しい風景』に関連するテーマ設定を行い、活動したいと説明されました（今秋は新潟県、来春に富山県、秋は石川県で開催予定）。
- ・新規に荒岡明子氏が北陸ブロックに入会され、計 52 名となりました。



ブロック幹事 野嶋慎二氏（左）と事務局の埜正浩氏（右）



会場参加者の様子

都市環境デザイン会議北陸 in 福井 2021

日時：2021年6月19日（土）13:00～16:00

会場：越前古窯博物館 天心堂+オンライン開催

参加者：会場参加 28 名、オンライン参加 97 名 会員 23 名（北陸ブロック 12 名、他ブロック 11 名）、一般 74 名 計 125 名（参加申し込み数）

プログラム：

◎基調講演

『美し国（うましくに）・日本をめざそう！』

～日本庭園から都市・田園・国土のデザインへ～

進士五十八氏（福井県立大学長/東京農業大学名誉教授・元学長/NPO 法人美し国づくり協会理事長）

◎パネルディスカッション

コーディネーター

鰐 隆弘氏（金沢美術工芸大学・JUDI 会員）

パネリスト

上山 寛氏（上山アトリエ・JUDI 会員）

柳原 恭順氏（㈱三四五建築研究所・JUDI 会員）

島 由治氏（アルスコンサルタンツ㈱・JUDI 会員）

土井 直紀氏（土井造園土木㈱・JUDI 会員）

フォーラム「庭園から景観へ」は、北陸ブロック初のハイブリッド形式（越前古窯博物館 天心堂+WEB 配信）での開催となりました。

まず、北陸ブロック幹事の野嶋慎二氏が挨拶され、司会・進行は玉森慶三氏が務めました。



司会の玉森慶三氏



挨拶される北陸ブロック幹事 野嶋慎二氏

■ 基調講演(概要)

◆『美し国（うましくに）・日本をめざそう！』

～日本庭園から都市・田園・国土のデザインへ～

進士五十八氏（福井県立大学長/東京農業大学名誉教授・元学長/NPO 法人美し国づくり協会理事長）

私は新世紀になる直前に、『風景デザイン論』という本を書いた。ビジュアルで目だけをごまかせばいいということではない、安定した風景が大事だということ。女優の沢村貞子さんは、『私の浅草』という本の中で、「いい男」のことを「いい景色」だねと言った。「景色」という言葉。顔だけではなく、全体や着姿、しぐさ、その全体で「いい景色」。「いい景色」とは、「時間の美」だと思う。



基調講演 進士五十八氏

私の景観論は3段階論。「景観論」は、普遍性がある。どう見えるかは誰でも同じで、赤は赤く見えるということ。しかし「風景論」は、その赤に良い思い出がある人は、赤を見ると感動するが、不愉快な思い出のある人はぞっとする。これは景観というビジュアルな情報を人間の脳で加工し、過去の記憶や思い出と重なって感じるということ。最後に「風景デザイン論」は、作るということ。これは、我々プロの仕事でもあり同時に、一般の市民もそうならなければいけないということである。

「景観論」の「安全・安心の原則」。ビックサイトは逆三角形で不安を煽るから日本一の会場としてはぴったり。都庁は垂直。丹下健三は東京都のシンボルとして都庁を造った。あのベクトルが天に昇るようなもので、数千万の都民の象徴にするには必要だった。観光地の回転展望レストランなどは、象徴的で客は来るが、景観を破壊している要素でもある。巨大な建物が大好きという人もいるが、圧迫感を少なくするためには分節化しなければならない。

次に「関係の原則」について。図と地、点景と背景など、このバランスはもちろん、海岸のよしず張

りや林内のログハウスなど、エコロジーというのみんな丸太にしているが、そこに合うかどうか第一。この形、この色ならどこでもよいというものはない。

次に「多様の統一の原則」。色、形、大きさなど、いずれかを揃えればよい。わかりやすいのは、「緑は百難隠す」というように、どんな風景でも緑で包めば落ち着いた風景になること。ただし、そういう一面はあるが、本当は緑にも個性があることも知っておいていただきたい。

もうひとつは、見る人の問題。歩き方にはそぞろ歩きから小走りまでであるが、歩行速度がとても大事。レジャーウォークという言葉を使うが、歩くことはレジャーであり、ゆっくりゆっくり味わって歩く。我々人間は、知性・感性の両方を持ち、そういうトータルな感覚で物を見ているので、それに応える環境デザインが必要である。



進士五十八氏の講演の様子

「風景論」。景観は誰にでも共通だが、私が福井に特別な思いを持つのは、子ども時代を過ごした原風景であるから。作家でもアーティストでもシンガーでも、みんなどこかに子どもの頃の人間関係や環境との関係、原体験などが美意識を左右している。ただし、個人の原風景論だけで考えると、都市計画・まちづくりにはならない。風景づくりは決して適当にやっているわけではなく原則原理がある。土地を解剖すると、地べたが地質、その上に地形、水系や植生がのって、全体で地理と言う。さらに時間軸が入ると歴史地理になる。風景というのは地域、地域で全く違う個性がある。私が言いたいのは、時間はとても大事だということ。一瞬を切り取った映像に置き換えてしまいがちだが、時間の概念はとても大事で、日本庭園は時間の美を基準にしている。空間の美、造形の美よりは、時間の美を大事にしていると思っている。

もう一つは人間の五感の問題。八景式風景観。近江八景などがあるが、もともとは中国の瀟湘八景を真似たもので、上の2文字が、場所や地名。下の2文字は時間、季節、動植物、気象、風物、情景など。

例えば平沙落雁は、狩りが降りてくる。遠浦帰帆は、帆をかけた漁師の船が入ってくる。漁師が魚をとって帰ってくる。これは生業。景観論というと、高尚な貴族の遊びのように文化人を称する人は錯覚しているが、人間の全ての営みすべてを見つめている。

「風景デザイン論」。デザインはプライベートな仕事ではなくパブリックなもの。土木の仕事はまさに地図に残る仕事であり、プロセスが大事。杭州の西湖十景の根本は公共事業で、洪水対策から始まったもの。日本の大名庭園はこれがモデルとなっていて、その一つに、松平定信が農業用水を溜めるために白川に造った南湖公園がある。農業用水の貯水池であれば島はいらないが、島を作って庭園にした。NYのセントラルパークよりも早く、日本は庶民のための公園、空間をつくった。これが公共事業の在り様で、全体をコントロールすることで節約にもなる。実用性と景観性を両方兼ねる、これがランドスケープ、造園の思想である。風景デザインは、作る時に詩心や絵心を持った人が考える。合理的、多様な機能を全部考える。つまり総合対策。それがデザインの入り口である。二つ目は、材料には地域らしさ、地場材を活かすということ。愛知県の常滑の発生材でも独特の風景ができています。

景観づくりの手順は、まず市民に地元の風景から残したいもの、育てたいものを見つけさせる。子どもの頃から、そういう目で風景を見させるトレーニングを市民に対して行う。二つ目はそれをまとめてまちづくりとして考える。安全で便利で美しく、生き物が生きられて、地域らしさがあって、最後は感動するものでなければならない。

観光振興のための地域づくりの進め方についても、LMN法という方法を提案している。ライトアップ:光をあてて、ミーニット:意味づけをして、ネームイットするとそれは資源になる。それは発見する人の能力であり、環境デザイナーやコンサルタントはこういう目をきちんと持ってほしい。クライアントやプロジェクトの対象地域をとことん見つめる術がいる。景観法を成立するときに議会決議で、景観まちづくり教育をしっかりと国民にやってくださいということを説明した。教育のアプローチとしては、専門家のためと行政マンのためと子どものための三部作としている。

「新作庭記」では、本質的には同じ土俵にのるべき建築・土木・造園が、それぞれの学会、分野でやっていて、全体が統合されていなかったもので、日本の国土と風景の創造に向けた何かしらの方向性を

提示しようと、それぞれの著者の主張を聞いた後にディスカッションしている。

私の章では、現代人、外国人でもわかるように日本庭園論を整理した。日本庭園論というと、“わび”“さび”“しおり”ならまだしも、みんなよくわからないことを難しい言葉で書くが、最近は縁側とは何かという話になってしまう。圍繞（縮景）、借景、樹藝、然びなど、骨格をきちんとわかってもらえるように書いている。世界の庭園、ガーデンでいうと、空間、景観、自然、時間。この4つがガーデンの本質を表している。

まず空間を成り立たせるために囲む。そうすると囲まれたところに空間が生まれる。囲みの中につくったのが日本庭園。囲まれすぎると外がほしくなり眺望を求める。これが景観。それは内の眺望、外の眺望、両方ある。世界の庭園は、並木にしたり遠近法にしたり、すべてビューを強調するようにつくっている。日本は外にあるものを身近に引っ張るという借景。よそのものを自分のものにするというテクニック。次に樹藝。1種類1種類、樹種の樹形、樹木の種類による性質の良さ、それを全部補い合いトータルをつくるということ。最後は時間美。四季や10年100年、小さな時間から非常に大きな時間まである。これが造園の一番大事なポイント。時間で変化するのが路地であり八景であり、10年100年の然び。然びというのは時間の経過によって本物、本質が表にでるということ。日本庭園は、普遍的なものを日本の固有のものに少し掘り下げる。それが特色である。

■ パネルディスカッション

「庭園から景観へ」～庭園王国新潟の現状と課題～と題して上山寛氏、富岩運河環水公園「駅裏」に新たな景観を生み出した事業と題して柳原恭順氏、金沢の風景づくりに携わって～歴史と伝統から、あるべき姿を考える～と題して島由治氏、福井県内の名勝庭園と題して土井直紀氏が報告されました。



コーディネーター 鏑 隆弘氏

（鏑氏） 庭園、それぞれのまちの景観についてご紹介頂いたが、その庭園があることやまちの景観のこれはということをお聞きしたい。

（上山氏） 今回のテーマを頂いて、江戸時代、明治になるまでは、日本庭園に代表されるよう



パネリスト 上山 寛氏

に、人間が自然の中に生かされていることを自覚していた社会だったと思う。和風建築と一緒にあって、火災になれば建築も燃えてしまいなくなってしまうし、そのなかに生きる小さな虫も人間も全部その関係性の中には生きているが、いつか無になって、同じように自然の中に帰っていく。それが明治になり、西洋から認めてもらおうと、西洋的な思想、自然を支配して収奪して経済成長を遂げていく。人間が自然に対して、今までの考え方と違った考え方を持ってきた。そういった中で、民衆の自然観と国家の自然観の軋轢があった。そういったことをもう一度見直し、日本の伝統的な自然観に帰ること、もう一度立ち返ってみるのが、大切ではないかと思う。それを気づかせてくれるのが、和風建築であり、日本庭園かと。日本庭園の見方はいろいろあるかと思うが、感覚的に日本人として感じるができる場所ではないか。そういったことをもう一度見直すことによって、また新しい私たちの生き方や風景ができていくのではないかなと感じた。

（鏑氏） ひとつの文化的な形、集積としての庭園ということ、その重要性をもう一度見直そうということですね。

（柳原氏） 他の都市の話を知ると、いい日本庭園というのは城下町、特に江戸時代、大きな大名の歴史的な厚みがあって出来たのかなという気がしている。富山県を見てみると、個々の人たちは多分あると思うが、割と多くの人たちは、あまり庭園文化に触れられるような、そういったものが今まではなかったというのが残念な所。環水公園は、非常に近代的なものだが、そこにあるものをどうやって使っていくかという発想で、年代的なものにし直したという



パネリスト 柳原恭順氏

思想があるかなと思っている。富山のまちなかには城址公園もあって、最近日本庭園が綺麗に復活はされているが、立地上の問題で人がたくさんふれあるポイントにはない。かなりの富山市内はフラットで現代的是ものが多いが、逆にそういう日本庭園に限らず、もう少し都市の中に何か所か意識的に設けていくことで公園文化をもう少しうまく配置していくことができればよい都市になっていくのではないかなと思っている。

(鰐氏) 量的に公園は十分足りてきているので中身を、ということですね。

(島氏) 金沢は一周遅れのトップランナーと言われているが、私はそうではないと思っている。進士先生が先ほど言った、今までの国づくりは間違っていると、まさに僕も思っている。50年前に金沢市は伝統環境保存条例を、国や京都よりも先



パネリスト 島 由治氏

駆けて作っている。40年代、明治で金沢の時は一度止まるが、それまでは東京、大阪、京都について4番目の人口だった。武士が衰退し、どんどん人口が減って、そこで金沢の時は止まった。それから50年の間は確かに半周遅れのトップランナーだと思っているが、伝統環境保存条例を作ってから、かなり先駆けて、画期的にまちづくりが成功した事例だと思っている。今の景観を今後50年、100年、どう守っていくかというのはこれからの僕らの課題。道路の街路樹を5mに1本植えていてはだめ。僕も土木出身なので、土木だけに任せていてはまともなまちづくりはできない。こういった造園や庭園、文化人、そういった感性のある人を景観に取り込まなくてはならないと思う。

(鰐氏) 僕も40年前ランドスケープの世界に入るときにこれからですねと言われたが、3年前にも同じこと言われた。

(土井氏) 役所の仕事では、木を植えると検査がある。まっすぐで両サイドが同じような葉張りであればOKだが、片枝でそれを組み合わせるといふにしたいが、全部同じような木を選んで丸の位置に植えるというのが今の庭や公



パネリスト 土井直紀氏

園の作り方。これは検査官に自信がないのか、植える方がこの通りにやって植えればOKなのか。どちらなのかが今非常に疑問である。なので、自分はある程度役所の仕事をしなくて、民間の仕事で頑張っている。お客さんがこの金額でいい庭を作ってくれと言われるようなお施主を探して、頑張りたいと思っている。

(鰐氏) 自分も近所の空き地に家が建つときに、木を植えてくれ、役所で配っているからと言うが、ほとんど植えてくれない。そういう所へお節介でも私が入れるとまた風景、景観としてよくなるのではないかなと思っている。

(鰐氏まとめ) 今日は庭園から景観へということで、庭園にはいろいろな要素、場所の要素、資源が凝縮されて見えやすく、気づかれやすくなっている装置だと思う。それを私たちプロは、その場所、名勝にしても、いろいろな庭園にしても、場所ありきで資源を見つけて庭園として仕立てていると思う。そういう資源を見出す力を私たちはプロとして持っているはず。それをこのJUDIで共有し、どんな景観づくりをしていくのか。小さな庭園の細かな石の粒の表情から、広い世界のところまでつなげていく。そういう人が揃っているの、ぜひそういうことにいかしていきたい。



パネルディスカッションの様子

■ 茶席と庭園見学

今回の会場となった越前古窯博物館『天心堂』は、平成 29 年 10 月 28 日、越前陶芸村の中にオープンしました。古越前の研究の第一人者、水野九右衛門氏の登録有形文化財「水野コレクション」を展示する『資料館』や、江戸時代に建てられた水野氏の旧宅を移築・再現した『旧水野家住宅』、数寄屋造りの大家の設計・監修による本格的茶室『天心庵』があります（作庭：土井直紀氏）。



越前古窯博物館のお庭や茶室

当日は、あいにく残念な雨模様の天候でしたが、『旧水野家住宅』では、「越前焼「陶ふうりん」千の音色♪」が開催されており、涼感を誘う澄んだ音色を楽しむことができました。

また、本格的な茶室『天心庵』においては、土井直紀氏夫人とお弟子さんによるお茶会が催され、お点前を披露していただきました。お茶碗をはじめお道具には、越前焼のものを中心にご準備いただき、福井県外から参加するメンバーをおもてなしいただきました。茶室という非日常の空間で点てられたお茶とお茶菓子を味わい、久しぶりに顔を合わせたメンバーの話も弾みました。



旧水野家住宅に飾られた越前焼「陶ふうりん」



土井直紀氏から説明を聞くメンバー

●北陸ブロックの今後の活動予定

◇都市環境デザイン会議 in 新潟

日 時：2021 年秋頃 会 場：新潟県

◇都市環境デザイン会議 in 富山

日 時：2022 年春頃 会 場：富山県

【お問合せ先】

都市環境デザイン会議北陸ブロック

幹 事 ●野嶋慎二（福井大学教授）

事務局 ●埴 正浩・高永智恵（㈱日本海コンサルタント）

TEL 076-243-8281 / FAX 076-243-8309

E-mail m-rachi@nihonkai.co.jp

JUDI 北陸ブロックホームページ

<http://www.judi-hokuriku.gr.jp/>

JUDI 北陸ブロック Facebook ページ

<http://www.facebook.com/judi.hokuriku>